

協連 会報



平成31年3月発行
第47号
彩の国いきがい大学
校友会連絡協議会

編集幹事校
蕨学園校友会
広報部

協連会長 玉岡 福彦



今年の三月、台湾旅行した折り、地下鉄に乗った。日本では優先席と書かれているが、台湾では博愛席と書かれて、そんなに混んでもいないのに、私は生まれて初めて席を譲られたのだ。

日本人に親切だと聞いていたがこれ程思わなかった。

日本の優先席では若者がスマホ片手に悠然と座っていて、お年寄りに席を譲る気配も見せないというのに。

日本も昔は互譲の精神があつて、お互いに助け合ってきたものだが、昨今では自国第一主義とか、都民ファストとか主張する政治家も出てきて、自分さえ良ければいいという考え方の人も増えてきて、人々の心を索莫とさせている。

いきがい大学は、お互いに学び合い、助け合う活動を通じて社会に貢献するのが目的であり、韋を佩び以て己を緩くすのたとえどおり、お互いの長所や良い点を学び合うのが本来の姿であり、協連協は上部団体でもなく、各学園連協の運命共同体であり、各学園も同じように、各期の連合体であり、対等の仲間として、お互いに学び合い、助け合うことが大切であり、協調と調和が重要である。つまらぬ自我妄執を捨て、得手勝手を慎んだら、世の中きつと明るくなるだろう。

オレや、オレが・・を捨て おかげさまで・・と暮らせばきつと自分の身に幸せが訪れるのではないだろうか。少なくとも、私は、そう信じている。

(川越学園 校友会会長)

韋を佩び以て己を緩くすとは、自分の欠点を自覚してそれを直すため努力すること。韋はなめし革で柔軟なものたとえば、佩びは身につけること (中国のたとえ)

いきいき埼玉からの寄稿

公益財団法人いきいき埼玉

高齢者いきがい支援担当

彩の国いきがい大学校友会連絡協議会会員の皆様には、日ごろボランティア等、社会参加活動にも格別のご尽力を賜り深く感謝申し上げます。さて、人生100年時代を迎えようという今、彩の国いきがい大学は、今まで以上に一人ひとりのシニアライフを充実したものとなるよう、新しい取り組みを始めます。

1点目として、今までの学園形態を見直し、一般課程でも専攻課程でもない新しい形の「いきがい大学」としてスタートします。

2点目として、人生のセカンドステージにスムーズに移行できるように、55歳以上の方を対象に、卒業後の具体的な活動の場への橋渡しまでを見据えた「プラチナコース」を新設いたします。

会員の皆様におかれましては、彩の国いきがい大学を卒業された先輩として生きがいやさらに高め、その交流を活かし、ますます「いきいき」と活躍していただきたいと大いに期待しております。

平成31年度第1回公開学習の

ご案内

日時 7月16日(火) 午後1時

講師 金田一秀穂氏

講演 生き生き日本語(仮)

校友会の交流事業について

本年度は、いきがい大学の一般過程のカリキュラムに、校友会との交流をテーマにした講座が加えられました。これは、在校生に卒業後も仲間との交流を継続するための組織として校友会を設立し加入を推進するためです。

カリキュラム内容については、各学園の校友会会員が検討・準備し、プロジェクト等を使用して活動している様子を紹介しました。クラブ活動についても紹介に加え演奏などを実演することで、校友会についての理解と交流を深めることができました。

90分と限られた時間でしたが、今回の講座で校友会が在学中に築いた人間関係やクラブ活動を継続するために大きな役割を果たしていること伝えることの一助となりました。新年度は新しい校友会の会員の加入で校友会の輪が大きくなることを期待しています。(いきがい大学校友会連絡協議会)

校友会推薦文 ①

浦和連協 根岸 成治 (28期)

私が退職した平成十一年頃は、「考えることをしなければ認知症になりやすい」というのが定説だった。が、私は体験から、体力がなければ考えることも、ままならないと思えば考えることも、ままならないと思えば退職後は、体力づくりに力をいれるようにしてきた。従前からやっていた野菜づくり、ソフトボール、囲碁に加えて、ボウリングを復活させた。

平成十一年から四年間自治会の役員を務めた後に、刺激を求めて近くにあつた『いきがい大学浦和学園』に入学した。いきなり班長をやることになり、班をいかにまとめるかに腐心したのもいまでは懐かしい。

校友会では、事務局のすすめによりグラウンド・ゴルフ部の創立に参加した。今は、その魅力にはまり、仲間と大いに楽しんでいる。県大会には、毎年参加している。

今年に入つて(平成三十年)四十年続けてきたソフトボールは、廃部により必然的に止めることになった。また、ボウリングは、膝を痛めて二月以降一度も投げずにいる。野菜づくりは、一緒に始めた仲間の三

人は、体力の衰えから既に止めてしまった。私もそろそろ限界かなと悩むこの頃である。

囲碁は、趣味の内で最も力を入れている。始めたのは、二十代前半だからもう六十年以上続けている。三十数年前に、退職後は地域の人達と囲碁を楽しみたいと思ひ仲間を集めてクラブを創つた(大久保領家囲碁クラブ)。以来十人程度の仲間と月二回の対局を楽しんでいた。

平成十七年に近くに公民館が設置されたのを機に、活動の輪を広げようと対局場所を自治会館から公民館に移し、普及に力を入れるとともに、名称も『大久保東囲碁クラブ』とした。その結果、会員数は年々増加して、現在では、女性二名を含む四十五名の大所帯となっている。

活動は、月六回の定例会。会員の親睦を深めるため、新年会の新年度と暑気払い。年一回の一泊旅行などの行事を実施している。



校友会推薦文 ②

川越連協 土井 美恵子 (34期)

一方、公民館に併設されている児童センターでは、館長の依頼を受けて八年前から年間を通して『子供囲碁教室』に講師を派遣している。最近、こうしたクラブの功績が認められて、市、県などから平成二十七年以降、三年連続して表彰を受けている。また、当クラブは、平成二十七年に十周年記念会報を発行した。こうしたことを通じて会員の中には、いろいろな分野に経験豊富な人材がたくさん居ることを知った。この力を今後も地域の発展に少しでも寄与できるように心掛けていきたいと思つている。以上 (大久保東囲碁クラブ会長)

私は、平成二十二年度、三十四期生です。励ましあい、協力しあつて仲間づくりを！そしてアクティブライフ支援隊の養成研修を受講し学んだ知識を活かして地域の支え手として活躍しようという趣旨に賛同、楽しく年を重ねています。

足を使う事、指を使う事が目標に四季発見の会、史跡めぐりの倶楽部、

折り紙クラブに入会、そして教養(今日する用事)教育(今日行く所)に励んでいます。

一日が、一週が、そして一ヶ月間があつという間に過ぎて早く感じる今日この頃ですが、ある人が年齢は時速と共に過ぎて行く。10代は時速10km、50代は時速50km、70代は70kmで一日が過ぎて行くのだと！ボウーとしては、いられない訳ですネ。(チコちゃんではないですが?) 現在、校友会のボランティア活動として、川越氷川神社の清掃に年一回ですが、参加しています。清掃のあと神主さまのお話、お祓いをして頂き清々しい気持ちになります。

地域では、春、秋と町内のゴミ拾い、河川敷のゴミ拾いに参加、又週に一日はパトロールをしています。又、趣味の仲間と、老人施設へ慰問に行きます。車イスの人も、少し元気のない人も、知っている歌に合わせ、歌ったり、一緒に踊ったり、手拍子をして、楽しい時を過します。それは、自分自身の生きがいになっています。年には勝てませんが年は(減らす)取るつもりで楽しく過ごしています。

校友会推薦文 ③

熊谷連協 佐藤 寿夫

(22期)

好奇心が【気づく力】を磨く



今やコンピュータ・AI(人工知識)が人間の能力を超えていく。人間の脳の総合限界をコンピュータが上回る、この現象を(シンギュラリティ)というそうです。二千四十五年とも言われる、その時への期待と不安があります。これまでの80年間でCPの計算能力・記憶能力・通信速度は100万倍に増えました。次の30年間は確実に人口知能は人間を超えて行きます。これらはすべて、人口知能がその人の行動を観察して、推論し学習しているのです。人間にしかできない事それは「考える」と「好奇心」をもって「気づく力」を磨く事だと思えます。

俳句は究極の「気づきと発見」

俳句というのは、いわば「小さな好奇心」を掘り起こす作業です、身の回りのことに気付く楽しさが出発点、好奇心をもって観察していれば、

小さな出来事は日常生活いくらでもあます。

俳句は気づいた自分が主役

俳句は自分を表現するというのが一番の目的なので自分の作った俳句は後から見ても、気づいた時のシーンがいきいきと一枚のフィルムが再生されたように蘇ってきます。その時誰といたか、何を見たか、風の音やにおい、陽光の輝きなど・たとえ一瞬であつても、五感で感じ取ったものを再生させてくれる、これが俳句の力のように思えます。

毎日気づいた事を一句詠むことで、それが日記になりますし、長年積み重なると自分史や家族史にもなります。又、俳句を作っている時は、脳が活発に働くという報告も、実際に俳句を続けている人は高齢でも顔も身体も若々しい人が多いので、これからでも始めてみませんか。

リズム・バランス・ハーモニー

平成の時代が幕を閉じます、世の中の全てのものが大きく変わり、人の生活は、江戸時代が一番良かったという説さえあります。利便さ、重宝さ、楽する、が先に出て心豊かな生活が失われているのです。便利・スピードも大切であるが、リズム・バランス・ハーモニーのある暮らし

をゆつくり、のんびり楽しみたいものです

校友会推薦文 ④

尊敬する自慢の人

久喜連協 37期会長 高橋幸夫

37期は29年度問題を早くから議論していました。県連協・久喜連協の要職が一度に回ってくるからです。37期校友会会長が決まらず揉めに揉め高橋に回ってきました。手分けして協力して運営することになりました。会長は各担当の連絡調整役に徹すると引き受けました。

29年度は、平等で個人負担を軽く継続可能な校友会執行部にする、30年度執行部(総務部長)に、前々会長を迎え協議を重ねてきました。

29年度、30年度懇願され県連協副会長兼企画部長を務めた、我が37期校友会の自慢の友人、尊敬する宮崎健一さんを紹介いたします。

県連協副会長兼企画部長として県連協3大事業(社交ダンスの集い、グラウンド・ゴルフ、芸能祭)を成功させています。各事業の企画運営に参画し種々な問題を調整し、立派に成功させ参加者が楽しく過ごせました。

また、宮崎さんは、東京大学で行われた市民後見人養成講座に参加し、後見人制度の普及団体に所属され尽力されています。37期校友会でも『後見・遺言・相続』についてパワーポイントを使った講義を受け、話

は分かりやすいと大好評でした。地域のボランティア活動では、おもちやの病院の運営にも携わり多くの子供達に夢と希望と喜びを与えています。私の娘も古いオルゴールを直してもらいました。子供の頃がよみがえったと大喜びをしています。

毎年2月に大宮加須31kmかち歩き大会があります。飲まず食わず走らず、違反3回で失格という鍛錬の競歩です。本年も650人位の参加者がある中、彼は同年齢代で今回もトップクラスで完歩する鉄人です。

このように体力、気力、行動力の富んだ宮崎さんを擁しながら37期は校友会を解散します。

今後『なかよし会』として活動していくことが決まりました。永いこと県連協・久喜連協の皆様ありがとうございました。各連協の発展をお祈り申し上げます。

校友会推薦文 ⑤

ボランティアだなんておがましい

春日部連協 戸塚 晃

「コマってできる?」「見たことある!」「やってみる?」「やりたーい!」「こっちの手にコマをもつて、こっちの手でひもをまくんだ」「えっ、どうやって」「こうやってさあ」「ふうん」「もうちよつと、もうちよつと」「できたあ、できた!」このときの子どもの目を見てみてください。私自身も至福のときです。



「よーし回してみるか」「やりたーい!」「こっち回りでいいかい、力を入れないよ」「イチ、ニのサン」「それっ」「わあ!とんだ!とんだ!」そのときの子どもの得意げな顔は忘れられません。

いま私たちは「子ども達に昔遊びを伝えたい」のイベントにたずさわっています。ボランティアだなんていう人がいますが、おこがましいと思っています。遊んでみせている自分が最も楽しんでいるからです。これってただの自己満足でしょうか。

校友会推薦文 ⑥

いつまでもポジティブ思考で

いたいの

蕨連協26期 新井都江さんのこと



コマや、お手玉や、けん玉などは見て触れば思い出すのも簡単です。そう、もうふた昔まえの自分です。そして

ふた昔まえの自分と同年の子ども達にやって見せて一緒に遊べばいいのです。

つぎは、道具を使わないで大勢で遊べる、おしくらまんじゅうみたいなものをやりたいなって思っています。

老々の訪問はその次かな?そのときは自分が受け身の側でしょうね。

春日部連協の15期生の有志でスタートでしたので、15いちごの会と言います。いまは他の期の人にも参加してもらい、校友でない人にも協働してもらっています。「子どもの声が聞こえる街づくり」これは先輩からいただいたスローガンです。(昔の子ども遊びいちごの会世話人)

運が良く、山小屋の2階の1室が我々のグループにあってがわれ、楽しいひと時を過ごすことができました。2016年7月にもヨーロッパ、マッターホルンの麓(ウンター・ロートホルン)を散策してきました。

残雪がたっぷりあり足元が、おぼつきません。空を見上げれば真っ青な空。気分爽快です。

このような新井さん、仲間とのコミュニケーションを取る事が上手く、元気はつらつです。

いつまでも、26期の精神的リीडアとして元気で活躍される事をお祈りしています。



いつまでも、26期の精神的リीडアとして元気で活躍される事をお祈りしています。

(26期 M・H記)

校友会推薦文 ⑦

「民話の会いなぼっち」の

ボランティア活動

伊奈連協

伊奈学園に平成二十三年に入學（二年生）して、伝統あるクラブ活動の一つであります「民話語り」のクラブを立上げて、早八年になりました。

在学中は、「十七期民話の会どんどはれ」から川崎講師を派遣してもらい民話語りを練習してきました。

川崎先生から「民話に入った動機を持ち続けることが大事」と、それぞれの思いを胸に秘めながら、一本立ちを目指して語り続けてきました。



卒業後のボランティア活動は、福祉施設のデイサービスを中心に自治会・校友会・児童会等を、地域はさいたま市を中心に北本・白岡・川口まで足を延ばしています。

平成二四年度は十七回口演から毎年約五十回口演を重ねてきて、平成三十年十二月五日の口演で三〇〇回になりました。

口演にあたっては、「民話」だけではあきてしまうので、それぞれの特技を発揮し、「手品・手体操・オカリナと歌・紙芝居・早口言葉・売り声等多彩の余興



と出かけて行きます。

『お知らせ』

民話の会いなぼっち

第七回民話・昔話し口演会（無料）

日時 二〇一九年三月二六日（火）

開演十三時三〇分

浦和コミュニティセンター

（第十五集會室）

（記事 熊谷初雄）

校友会推薦文 ⑧

多彩な才能の持ち主

入間連協

山田 善吉

入間連協の方ならご存知の方が多いでしょう。例年、文化祭での2期の演芸部門で映像をバックにギターを片手に歌う人を。その人は山田善吉さんです。

彼は、入間学園2期と伊奈学園21期を過ごし地域創造科の二つのいきがい大学を卒業しております。

入間学園2期校友会では、平成25年3月の第1回芸能祭への出演を機に、ボランティア活動を目的としたグループ「和気あいあい」を発足させました。

歌、踊り、トーク、手品を構成したプログラムで年数回、デイサービスを訪問し好評を得ています。

彼は、その設立、構成、演出など、中心的な役割を果たしてきております。

また、伊奈学園では、在学中の平成23年11月に「童夢21」というボランティアグループを結成してイナヴォイスと上尾市社協に登録。

高齢者施設等を訪問して、むかしのあそびを一緒に遊び、一緒に歌い踊りや手品・民話語り・安来節・健康体操も加え交流。昨年までの訪問回数は231回だそうです。ご自身で作詞作曲して弾き語り、

映像も作成して、これまでに披露した次の様な曲があります。

一「我が級友よ」いきがい大学で出会った仲間との校友会活動の楽しさを歌にした（第3回文化祭・H25いきがい大学公開学習）



ともに学び
ともに輝け！

二「和気あいあい」ボランティアグループのこれまでの活動を歌にした（第5回文化祭・第5回芸能祭、H29いきがい大学卒業式）
三「ありがとう仲間よ」発足から10年目を迎えた入間2期の10年を振り返り仲間への感謝を歌にした。（第8回文化祭）

社会参加活動報告①

熊谷学園 KHC 22

ハーモニカクラブKHC22は9周年を迎えました。



クラブの目的は親睦と社会貢献で進めています。結成以来の人達と後から入った人達の連携も素晴らしいです。

く、良い相乗効果を醸すことが出来ています。

月二回の例会では、新曲の習得は元より基礎的な音の出し方も繰り返していき初心を忘れず練習を続けています。ボランティア活動を行い同じメロディーの演奏を行う。これ等も絆が培われ親睦にも良い結果が出ていると思います。

特に社会貢献には高い意識をもつ

社会参加活動報告②

浦和連協

て奉仕の心を醸成しております。「認知症の症状が進んでも、馴染みの曲を聴くと表情が和らいだり、涙ぐんだりすることが有る」と新聞に有りました。演奏に合わせて大きな声で歌って下さる、時には下を向いて涙ぐむ方もいらつしやる、こんな時、微力ながら音楽の力を借りて社会貢献を行っていると感じています。音楽が好きで楽しんで練習をし、グループでボランティアが出来て、聞いて下さる方も喜んで戴けることは、私達にとっても喜びです。



「生き生きシニア活動顕彰」を県知事から贈呈され、熊谷市コミュニティ作り協議会から「奨励賞」を贈られた事も励ましを戴いたと思っています。

【活動状況は熊連協のHP・二年制一期クラブ活動に報告をしています】

KHCクラブ 久明 章雄

二十五年間続いている赤い羽根街頭募金と毎年浦和連協で実施している「学習会・クラブ活動交流会」を社会貢献活動としてご紹介してきました。今回はもう一つ掘り下げ、会員各位がいきがい大学イズムを活かし、趣味を通じた地域とのつながりも大きなパワーとして、貢献しているものと受け止めています。

その事例を紹介させて頂きます。浦和連協三十一期のクラブ活動「オカリナクラブ」ですが平成十九年にスタートし十三年目に入りました。発足当時十七名が現在八名(途中四名の時あり)毎月二回先生に付いてのレッスンを重ねています。

目的は「オカリナの音色でリフレッシュ」をモットーにオカリナに親しみ会員相互の親睦と交友を深めることで、現在に至っています。徐々に演奏に慣れてきた頃「ボランティアをやろう」との声が強くなり、平成二十五年八月「さいたま市シルバーバンク」に登録しました。

シルバーバンク事務局では快く承諾をして頂き、その後、今日まで①介護・福祉施設(リハビリテーション・

デイサービス等)十二カ所、②保育園・療育センター・放課後児童クラブで七カ所にお邪魔しました。ボランティア活動と言うよりも、自分たちの癒しを兼ね一緒に楽しませて頂いています。

これからも、他の諸事業と合わせいきがい大学校友会の社会活動として大切に行きたいと思っています。

以上、私の判断で紹介させて頂きましたが、これらの一つひとつが結び合っって大きなパワーになると信じています。

浦和連協広報部 渡辺 登



◇保育園での演奏の一コマ◇

社会参加活動報告 ③

みんなでボランティア

春日部連協 二年制一期校友会

坂牧 妙子

二年制一期には「オカリナ一番星」があります。在学中は、騒音と言われてきましたが、今やコンサートをしたり、高齢者施設にボランティアに行っています。

私達が中心になって活動したのは



三つあ

ります。昨年引き続きのコンサートをイオンモール春日部で行いました。

一般課程

二十期のおカリナチームやウクレレチームと共にショッピングを楽しんでいる方々と楽しいひと時を過ごしました。二つ目は八月の高齢者施設

設訪問、三つ目はクリスマスの日の高齢者施設訪問です。サンタクロースになりきりクリスマスソングや手品でとびっきりのクリスマスを楽しみました。

また、一般課程十六期の南京玉すだれとコラボして三月までに十か所の高齢者施設を訪問します。どじょう掬い、オカリナ、手品、南京玉すだれ、オカリナに合わせて季節の歌



で閉めます。利用者さんからも元気ももらっています。

今年

度、専攻課程四期では卒業

後の社会奉仕活動ができるようにと「一芸講座」が設けられました。オカリナ講座もあり、練習日には交替で先生の助手を務めました。オカリナを始めた頃の自分たちを見ているようでした。三か月後に発表会があり、皆よく頑張ったね来年は皆でボランティアに行つてほしいな、と思いました。ボランティアに行くには

練習が大事です。

これからも皆で楽しく無理なく続けたいと思います。

社会参加活動報告 ④

川越連協総務部 松村昌男

今回は川連協が応援団体を目指して参加している活動報告です。「三ツ又ビオトープ環境サポート」



作業風景

【場所】上尾市、川越市、川島町の境に位置する、荒川と入間川のかつての合流付近の旧流路の一部になります。野鳥、トンボ類、希少な植物も多く観察されます。

【活動方針】上尾市の主催団体に参加しています。環境保全を目的とし

た、長期的な活動です。

【経過】平成三〇年度に、他の連協会員から川連協会長に紹介があり、現在川連協理事が参加しています。

【活動内容】自然のなかでの、環境保全活動です。イメージとしては、耕作放棄地の農業でしょうか。作業内容は外来種抜き、ヨシ刈り、樹木伐採等



三ツ又沼木道付近

があります。活動サイクルは繁忙期は毎週、週末半日作業です。

【今後の見通し】紹介のとおり、屋外での作業ですので、希望者で、屋外作業に慣れた会員の参加を予定しています。無理のない計画で、継続していきたいと考えています。

社会参加活動報告 ⑤

蕨連協

蕨連絡協議会では、29年度校友会会員が市民会館耐震工事のため授業が行えず28期が誕生しませんでした。そのため蕨連協の運営体制に大きな変更をすることとなりました。

そのため平成30年度は主に26期、27期で運営することとなりました。

蕨連協では4大事業としてグラウンド・ゴルフ大会を9月21日、ウオーキング大会を10月21日、演芸大会を11月16日と順調に実施する事ができました。

しかしフオークダンス大会は自粛することとなりました。ご協力いただきましたました各期、14期から27期の会員の皆様の感謝を申し上げます。

ここ3年程度の蕨連協の動きをみますと、28年度、春日部連協との共催での県連協行事「芸能祭」の開催に始まり、蕨連協「七夕コンサート」の開催、県連協行事のグラウンド・ゴルフ大会（伊奈学園との共催等）、また25期さんの県連広報部長、平成30年度は26期の県連広報部長就任等ずいぶん変化に富んだ時期を過ごして来ました。

平成31年度は県連の役員等、蕨連協の役員はどうなるのでしょうか？

特に思い出しますのは、一昨年の特別コンサートに関しましては、他の連協まで参加協力をして頂き蕨市民会館を満員にしたことです。



社会参加活動報告 ⑥

ふれあいコンサート

「いちよ・きよ・やぎりんバンド」

伊奈連協

十月一日に伊奈連協ふれあいコンサート「いちよ・きよ・やぎりんバンド」をさいたま市プラザノース

で開催しました。

本コンサートは、昨年まで実施していましたが、合同研修会に替わるイベントとして企画、実施しました。

今回はじめて参加協力金として会費をいただく有料イベントでしたが、会員、在校生のほか、元会員や家族・友人の方々の協力もあり、会場の多目的ルームがほぼ満席となる170名程の参加を得られました。

昨年度合同研修会イベントにご出演いただき好評であった「いちよ・きよ・やぎりんバンド」に今回もご出演を要請、快諾いただき、コンサートを実施することができました。

主催者挨拶、来賓ご挨拶等開会式終了後、いよいよコンサートの開演です。

バンド主宰者の八木倫明さんの楽しいトークとジョークを交え、ギターとケーナ等によるアメイジングな演奏、そして華麗な歌を堪能しました。

今回は「みんなで歌うコーナー」を設けていただき、コーラス曲として人気の「広い河の岸辺」、また、懐かしい日本唱歌「仰げば尊し」、

「旅愁」を全員で合唱しました。「仰げば尊し」、「旅愁」については、その歌のルーツや時代背景など興味

深いお話を聞かせていただきました。アンコールでは、出席者に参加してもらい、即興曲の演奏を楽しみました。



最後は素晴らしいコンサートで楽しいひと時を過ごさせていただいた「いちよ・きよ・やぎりんバンド」の皆様への感謝を込めて、会場全員の拍手をもって感動の幕を閉じました。

これからも会員の皆さんなどに楽しんでもらえるイベントを企画、実施して行きたいと思っています。

（専攻課程・第2期校友会 笠 記）

社会参加活動報告 ⑦

「社交ダンスの集い」参加

久喜連絡協 松本 茂

久喜連絡協議会／社交ダンス連合は、十月五日に蓮田市体育館パルシーで開催された

「社交ダンスの集い」に参加し、我々39期ダンス部も、その一翼を担いました。

七学園で約216名の参加者となりました。（久喜は、21組42名の出演）

学園旗を掲げて各学園が整列して開会式を行い、その後2部に分かれて各学園のフォーメーションが行われ、各学園が数か月（学園によっては一年間）に亘って地道に努力して練習してきた成果を発表しました。

発表後の学園の参加者達の表情は、皆晴々としてにこやかでした。

その他にトライアル（限定された複数組が競技会形式で踊るイベント）やミキシング（男女ともに一列に並び、先頭の人から順番に踊り、ランダムの手とコミュニケーションを図るといいます。）等でお互いの懇親を深め合った一日を過ごしました。ラストダンスでは、心なしか、別れの寂しさが漂っていた様な気がしまし

た。

久喜連では、合同文化祭や公開学習会等も開催し会員同士の交流を図っています。が、「社交ダンスの集い」は他の学園との交流が図れるという意味で一味違った存在になっていると思います。

いきがい大学を通じて同じ仲間と知り合えるこういう機会は極めて貴重だと考えます。こうした学園間の壁を越えた催しが数多く開催されん事を切望してやみません。

（39期）

社会参加活動報告 ⑧

金では買えない仲間造り

入間連絡4期校友会 谷 和夫

①4期校友会活動
入間学園卒業後は「仏像の美」の他に、「カラオケ」・「群読」に加入、4期校友会の会長の重責も担っています。

仏像の美クラブでは平成24年は奈良・平成25年は京都の仏像拝観、平成26年は秩父34観音巡りを実施しました。また、毎年1月には七福神

巡りも実施しています。

明るく・楽しく・元気よく・PPK（びんびんころり）を合言葉に活動する仲間が増えました。誘われたら、特別でない限り断らない。金銭は割り勘。みんな平等。みんなで楽しむ。常に笑いを絶やさない 仲間造りをしています。

②民生委員・児童委員活動

担当してから8年が経過しました。年々高齢者は増加しており、孤独死・徘徊・近所とのトラブルと問題には事欠きません。我々は問題を解決するのではなく、聴き役としていかにパイプを繋いでいくかです。見守り活動もさることながら、増々進む高齢化社会に向けて、地域に根差した相談相手として努めています。

③ボランティア活動

平成27年6月から市の依頼で「ぶっちゃん雑学講座（現在・教養講座）」を毎月開催しています。対象は60歳以上で毎回40名前後見えます。歴史・伝統文化・戦国武将・身近な話題（詐欺・葬儀&相続）などをテーマに約90分。3月末で43回になります。参加された方からのアンケートは私の貴重な財産となっています。

④仲間作り活動を通じて

いろいろな人を接することにより、「ありがとう」と言う感謝の心、「笑顔」は金では買えないと思います。自らそれを求めたら無理が来ます。これからは生活習慣病と性格習慣病（がんこ・我がまま・いばる）に気を付けて、朝、「かがみ」を見て「が」を捨て「かみ」になれるよう心掛けていきます。



昨年度入間連絡協文化祭（前列左 谷）

県連協事業報告 いきがい大学第一回公開学習 いきいき活動事例発表 2題

【いきがい楽団サウンド・ホース】

熊谷連協

熊谷学園二年制四期卒業生が立ち上げたバンドです。年々の卒業生等が加わり指導者を含め十名で活動しております。活動目標は

- ① 仲間と楽しい時間を過ごす事。
- ② いつまでも元気で健康である事。
- ③ 練習成果をボランティア活動等を通して地域に貢献する事。



この三つの目標を実現すべく月二回練習をしています。二十九年度の活動実績は大変多彩となりました、県連

協芸能祭、熊谷社会福祉ボランティア協会、深谷市fomaなごみ老人介護施設、深谷の智形神社秋季大祭など九か所で演奏。

地域の多くの方々と交流でき喜んで頂きました。こうした実績が評価され公開学習の出演を応募しました。

参加決定後は楽しいはずの練習も一段と厳しさを増し笑顔が消えるほどでした。

発表当日を迎えソニック大ホールの上で司会者の紹介後、会場から盛大な拍手を頂き、これまでの地域活動とは違う雰囲気を感じ緊張と不安を抱えての始まりでした。



演奏に入る時のつまずきが会場の笑いを誘いコミックバンドに感じた

方もいたようです。

ミスもありましたが一体感も感じられ楽しく演奏ができました。

終わりに、いきいき埼玉、校友会の関係者の皆様には、日々の活動では

経験できない貴重な体験の機会を頂き演奏をできたことに、心から感謝申し上げます。今後更に練習を重ね

地域活動に貢献していきたいと思

います。



いきがい楽団サウンドホース

井桁敏夫

【入間鼻笛ハナミズキ】

「努力は夢を叶えてくれる」

入間鼻笛クラブは入間学園8期在学中のクラブ活動からでした。

後にご指導頂くモスリンさんの演奏を初めて聞いた時の感動と音楽が好きなら音符が読めなくても出来るという言葉に魅かれメンバーを募りました。

最初は騒音などの問題もありカラオケ店で行うのですが音を出すのが一杯。唱歌が吹けるようになるまで数か月の時間を要しました。そして学園祭で在校生へ披露することとなりますが観客全員が初めてということもあり反響は今いち。ただ終了後なんともいえぬ満足感をメンバー全員が感じていました。

それが起因となり校友会のクラブ設立となっていきます。会員も増え会場も安定して確保出来、月2回の練習を行い、練習の合間に「いつか大宮ソニックシティーの公開講義の場で演奏したい」と言ったりしていました。しかし入間連協の文化祭への出演依頼から意識の変化が始まります。

平成30年6月19日(火)

「初めて聞いた時の感動を多くの方に伝えたい」そんな皆の想いが通じたのか次に県連の芸能祭へ入間代表で出演、同時に施設へのボランティア活動も始まります。

そして念願の「大宮ソニックシティーでの演奏」という夢を掴むこととなります。何千人もの観客の前での演奏に心臓が飛び出る様な緊張感立ち向かう勇気を与えてくれたのは手にしている鼻笛と日々の練習でした。自分たちの演奏に何時しか口ずさむ人や目を潤ませている人がいた



など多くの方からの嬉しい報告に「真面目に努力していれば夢は叶えられる」ことを実感させて頂きました。これをつかぎに熊連の鼻笛クラブ

設立に協力もできました。みなさん私たちの仲間になって鼻笛の魅力を体験してみませんか。連絡お待ちしております。

社交ダンスの集い

今年度は幹事校として東松山学園と浦和学園が幹事の予定でしたが、東松山学園が県連協を退会したため順番を変更し、熊谷学園と浦和学園が担当することになりました。

そこで、前年度幹事校の伊奈学園より引継ぎに際し提起されていた問題点や反省の上に立ち、熊谷学園大河原委員長より実行委員会制度を導入し、担当業務の分担見直しと簡素化を図ることとし、今年度から実行することになりました。具体的には従来幹事を副と主を2年間担当するやり方を改め、2校で幹事を1年担当する。幹事校以外の各学園は1名実行委員を選任し幹事と実行委員で実行委員会を組織し運営する。

簡素化の方は、従来使用していた開催要領を見直し簡素化、音響担当、音曲作成、司会進行など当日の運営は幹事校が担当する。尚、開催当日の準備、片づけなどは実行委員全員で行う。というものです。

さて、今年度の社交ダンスの集いは昨年と同じく蓮田市総合市民体育館（パルシー）にて十月五日（金）に開催いたしました。

当日は十月の初めにしては曇り空で

肌寒い日でしたが熊谷、浦和、伊奈、春日部、久喜、蕨、東松山、蕨ユニークダンス（車椅子）の八団体二二〇名方が参加されました。出演の皆さんの熱い思いのためかリハーサルを始めて早々、会場内が暑いとの指摘があり予定より早く冷房を入れました。各学園ともリハーサルから熱演でしたが、午後の本番は若さあふれる演技で各学園のフォーメーションをはじめトライアル、フリーダンスと和気あいあいの中順調に進み交流親睦も充分行われたのではないかと思います。かと思



浦和 金子記

も充分行われたのではないかと思います。かと思

グラウンド・ゴルフ交歓大会

平成30年度第20回大会は、川越連協と入間連協を幹事校として、10月9日彩の国くまがやドームにおいて、8連協から193名の選手が参加し、開催されました。

開会式では、宮崎大会副会長の開会の言葉、玉岡県連会長挨拶に続き、富岡熊谷市長他の来賓祝辞、選手宣誓、野島競技委員長の注意事項の説明と続き、富岡市長他3名による始球式

で、熱戦が開始されました。競技は、各連協委員の混成32チームで競われ、真剣な競技の間にも、日頃会



うことのない選手同士が、ホールのアプローチやGGの話題、日頃のクラブ活動などの話が弾み、和気あいあいの雰囲気の中、友好を深めました。245個のホールインワンが飛び出すなど日頃の練習の成果を発揮し、大いに盛り上がりました。

熱戦の結果か、試合時間は、オー

バーしたものの、成績集計に続き、閉会式では、競技委員長長の講評、玉岡会長による表彰式がおこなわれました。

優勝は、志田太利夫さん（熊谷）55打、準優勝山上てる枝さん（春日部）56打、三位檜山正夫さん（蕨）56打で、文字通り、1打を

争う接戦でした。昨年は上位を熊谷連協が独占という結果でしたが、今年是他連協の方もおいに頑張りを見せた結果となりました。



開催に向け、5月25日の幹事校打ち合わせから多くの検討会を重ね、準備を進めてきました。会場の地元、熊谷連協のご協力により、会場の確認や下見、現地での打ち合わせなども行い、無事開催にこぎ着けることができました。準備を重ねられた役員のみなさま、当日運営にご協力いただいたみなさま、なによりもご参加いただき、熱いプレーを見せてくださった参加選手のみなさまに御礼申し上げます。

（入間連協 足立 弘）

第七回 芸能祭

3月4日(月)蓮田市総合文化会館ハストピアにおいて、今年度の県連協最後の行事として、芸能祭が開催されました。

八学園連協・二二団体・三七〇名の出演者による熱演が繰り広げられました。

あいにく終日雨模様でしたが、会員を始めとする多くの方々がご来場され、出演者の演技を楽しみ、応援いただきました。

各連協代表の出演者によるコーラス、楽器演奏、ダンス・踊り、朗読、演劇・コントなど、素晴らしい、笑



いありのバラエティに富んだ演技が披露され、最後は勇壮な和太鼓演奏で盛り上がりました。

感動を有難うございました。

今回の芸能祭開催に際しては、幹事校として伊奈連協と久喜連協の七名が中心となって昨年から打合せを重ね準備し、総勢四〇名強の実行委員で運営に当りました。

運営にご協力いただいた出演者および観客の皆様、そして準備・運営に携わっていただいた実行委員、いきいき埼玉事務局の方々にお礼申し上げます。

来年度も楽しい芸能祭が開催されることを願っています。

伊奈連協 笠 茂男



校友会会報第47号 編集後記

2019年1月31日夜、久々に雨が降りました。地域により雪に悩んでいる所もあるそうです。今シーズンには1ヶ月程雨が降らず困ってました。

本会報が発行される4月ごろには春真っ盛りだと思えます。

昨年4月から、蕨連協が県連会報の幹事校になり、時間の過ぎる速さに驚いています。

〔蕨連協25、26期一昨年に続き 県連会報担当〕

今回、校友会会報の編集にあたり、困惑と不安を感じましたが、前任者の熊谷連協広報部からの詳細な引継ぎ資料とアドバイスを頂き、前例を踏襲して作業をすることにしました。県連協広報部会で会報の作成方針が決まり、次の三点を中心に編集作業に着手しました。

一点目は、今回は外部への原稿依頼は休止し、各学園校友会で活躍している校友会会員を推薦してもらい、その活動内容を寄稿して頂くことになりました。県連協・各学園連協での活動やいきがい大学の行事参加に加え、推薦による記事を掲載するため、

四頁増やし十二頁の会報としました。二点目は、会報の配布範囲を拡大しました。現校友会会員と今年度の卒業生に加え、新年度の入学生にも配布することにしました。

これは、今年度実施した「校友会との交流」カリキュラムと同様の趣旨で実施しました。いきがい大学の入学時から、校友会の存在や活動を知ってもらえればと思えます。

三点目は、編集作業は校友会内部で行い、業者には編集内容をそのまま印刷し発送をするまでを依頼しました。編集担当者の力不足のため、期待に応える編集結果にはなりませんでしたが、当初予算の三分の二の費用で発行する事ができました。来期の活動に活用できればと思えます。

この会報が、新校友会会員を迎え新しい年号となる来期のいきがい大学校友会に、新しい風を吹かせるきっかけになる事を願っております。

最後になりましたが、校友会県連協会長・いきがい大学事務局・各学園連協の理事・寄稿していただいた校友会会員の皆様のご協力に感謝とお礼を申し上げます。

平成三十一年三月三十一日

校友会会報四十七号
編集担当 蕨学園広報部